

希望の道をつなごう

東京2020オリンピック聖火リレー

新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期となっていた「東京2020オリンピック聖火リレー」が3月25日に福島県からスタートし、6月19～21日の3日間宮城県内で行われ、県内16市町村を巡りました。

21日には、本市から聖火ランナーに選ばれた川村日乃香さん（白石中）が岩沼市内を走り、家族や関係者が沿道で見守るなか、聖火をつなぐ大役を果たしました。

また7月14日には、聖火リレーの報告に市役所を訪れ、川村さんは「地域の皆さんにたくさんの応援をもらいました。聖火ランナーに決まってから1年後でしたが、一生に一度の晴れ舞台を走ることができてとても感動しました」とあいさつ。山田市長は「今回の聖火ランナーとして走った経験をこれからの人生の飛躍のステップにして、夢に向かってがんばってください」と話しました。



1



2

1\_全国からつないできた聖火を受け取る川村さん  
2\_山田市長に聖火ランナーとして走った報告をしました

子どもたちの安全・安心な環境を

学校施設等安全点検講習会

7月15日、「白石市学校施設等安全点検講習会」が白石第二小学校で開催され、学校、幼稚園、保育園、児童館の施設管理者や担当者など40人が参加しました。

この講習会は、市立小学校で発生した死傷事故を受け、学校施設での事故の再発防止を図るため、設備や構築物などの点検方法について適切な知識を身に付けようとするもの。この日は、白石工業高等学校建築科科長の萱沼俊一氏のほか3人を講師に迎え、学校施設における事故防止の留意点や校庭の遊具・構築物の管理・点検方法などを確認しました。また、フィールドワークでは、校内の危険箇所や子どもたちが興味を持って遊びそうな場所などを実際に見て回り、これまでの点検方法の見直しを図りました。

本市ではこうした講習会を通じ、学校環境の安全を確保し、事故防止のための安全管理を徹底していきます。



1



2

1\_点検方法の注意点を説明する萱沼氏（中央）と参加者  
2\_グループワークでは、それぞれが感じたことを情報共有しました

きれいなまちづくりへ

サンキューロードサポーター活動

6月16日、「しろいしサンキューロードサポーター」のNECプラットフォームズ株式会社白石事業所の皆さんが、工場前の市道沿いに植栽した50個のプランターを設置しました。この取り組みは、地域貢献や環境保全活動の一環として毎年実施。この日は、管理職の25人が参加し、工場前の市道を花で彩りました。

また、毎年6月は環境強化月間としてアルミ缶を集め、市内の保育園や幼稚園にクリスマスプレゼントを贈る活動にも取り組んでいます。



▲植栽したプランターに水を掛ける参加者

後世に伝えたい地域資源

石神社ホタル観賞の集い

7月3日、白川小奥環境資源保全隊主催の「第9回石神社ホタル観賞のつどい」が白川小奥地区の石神社周辺で開催されました。この日は、親子連れなど42人が参加。石神社で人工ホタル作りやプロジェクターを使った紙芝居などのアトラクションの後、大森川まで歩いて移動しホタル鑑賞をしました。数匹のゲンジボタルがふわふわと光を放ちながら舞う光景を目にすることができ、参加者からはホタルを見つけるたびに歓声があがっていました。



▲絵本をプロジェクターで投影して読み聞かせをしました

故郷を大切に思う

大鷹沢小学校開校記念集会

7月15日、大鷹沢小学校で7月18日の開校記念日を祝い、開校記念集会が行われました。この記念集会は、明治6年に誕生した学校をお祝いし、よりよい校風や伝統を受け継ぐ心を育もうとするもの。この日は全校生徒41人が、本市大鷹沢出身の横綱「大砲萬右衛門」の生家に住む角張一郎氏を講師に迎え、大砲萬右衛門の生立ちや歴史について講話を聞きました。

参加した児童は「学校や大砲萬右衛門の歴史を学べたいいい機会でした」と話してくれました。



▲自分の手と大砲萬右衛門の手を比べる児童